

成熟したアラメの見分け方



和名：アラメ

学名：*Eisenia bicyclis* (KJELLMAN) SETCHELL

分布：三陸南部から九州南端までの太平洋沿岸と瀬戸内海、京都府丹後町から九州西岸までの日本海に広く分布する。

特徴：低潮線付近から水深 5m くらいまでに生育する。二股に分かれた茎が特徴。サザエやアワビなどの巻き貝や魚類などのエサや生育場所として重要な海藻である。

山口県の日本海沿岸で一般に「カジメ」と呼ばれている海藻は、和名を「アラメ」といいます。アラメは水深 5m ぐらいまでの比較的浅場に生育し、寿命は 4～5 年です。アラメの種子にあたるものを「遊走子（ゆうそうし）」といえます。山口県の日本海沿岸部では、毎年 10 月上旬～11 月上旬にかけて、アラメの母藻から遊走子が放出されます。

ところで、波打ち際に打ち上げられたアラメの母藻のうち、遊走子をもっている成熟した個体を藻体が傷む前に海に設置すると、母藻から遊走子が放出されて新しい藻場をつくることができます。

現在「ふるさとながとの海洋緑化プロジェクト実行委員会」では、山口県漁協黄波戸支所海士組合の漁業者と協力して、食害生物であるウニを除去した海域にアラメの母藻を設置し、アラメの藻場を造成する活動に取り組んでいます。



葉体の部分で少し厚みがあり、光に透かすと色が濃い部分に遊走子は含まれています。指で触ると、遊走子を含まない部分はぬめりが少ないのに対して、遊走子を含む部分はぬるぬるとしたぬめりがあるので、すぐに見分けることができます。

「ふるさとながとの海洋緑化プロジェクト」は競艇の交付金による日本財団の助成を受けて実施しています。



日本財団 助成事業
The Nippon Foundation